

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1950880045	
法人名	医療法人千歳会	
事業所名	グループホーム甲西	
所在地	南アルプス市田島1105	
自己評価作成日		評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	平成28年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム甲西は、介護老人保健施設、通所リハビリテーションが併設しており、広々とした環境にあります。医師や看護師による医療面での連携や管理栄養士による栄養面を考慮した食事の提供をしています。掃除など利用者様と一緒に、常に気持ちよく過ごしていただけるよう環境整備を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は甲府盆地西部に位置する田園地帯にある。敷地内には介護老人保健施設、通所リハビリテーションが併設されている。3階建ての1階南側にあり、1ユニットの各居室は南に面して日当たりが良く、窓からは広々とした農地が見渡せる。同一法人が運営する介護老人福祉施設も隣接しており、災害訓練は併設介護老人保健施設、事業所の3施設合同で行い、連携体制を確認している。また、医療面での連携や管理栄養士による栄養面を考慮した食事の提供などの協力が得られている。事業者では安全に配慮しつつ、一人ひとりに合わせたリハビリ訓練を職員と連携して行い、利用者のちからをできる限り維持できるよう努めている。利用者は「尊厳と安全を総合的に支援する」ことを目指す職員と共に、日々、気持ちよく過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム甲西

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価
			ユニット名()	実践状況
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご家族様や地域の住民と協力しながら、安心して自立生活が続けられるよう柔軟な支援を事務所の理念にしている。事業所内の定例会や研修また、毎朝の朝礼後に理念を唱和している。	事業所独自の理念を事務所内に掲示し、月1回の定例職員会議や毎日の朝礼時に唱和して、全職員が共有している。「利用者の尊厳を守り安全に配慮しながら持てる力の維持を目指す」理念に沿って職員が利用者といっしょに歩行、立ち上がりのリハビリ訓練を行い実践につなげている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人で自治会の会員となり、田島地区の一員として、お祭りや地域活動などの情報を地域の方から教えていただき、ご利用者様が地域とのつながりを持ちながら暮らし続けられるよう工夫している。	利用者と職員で地域の空き地に花を育て、地域の方たちに楽しんでもらっている。水遣りなどの作業中には地域の方との会話の機会になっている。地域の小学生の来訪、クリスマス会などを併設老人保健施設と合同で地域の方々との交流の機会を持っている。周辺には新しい住宅も多く、支え合いの関係を築けるよう取り組みを模索している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は、日々の実践での認知症の人の理解や支援について、地域の人たちの相談やアドバイスが出来るようにしている。見学や相談はいつでも対応出来る。また、実習生の受け入れも積極的に行っている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者様の近況や、サービスの実践やその取りくみ状況などについての報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスの質の向上に活かせるように取り組んでいる。	運営推進会議は2か月に1回、平日に開催している。事業所の現状を報告し、行政の方から情報を提供してもらっている。地域代表メンバーからはリアモーターカーの開通に伴う騒音や日照の問題などが提起された。また、家族代表からは利用者の日常、外出先などの質問が出されている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員と連絡を取り合いながら、当事業所の実績や状況などお伝えしながら、常に協力し合えるよう取り組んでいる。	問題行動のある利用者について市の担当者に相談したり、市の担当者から相談を受けたりと、相互に協力し合える関係を築いている。普段から事業所の状況を知ってもらうように努めている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を一切行わない旨を事業所内に提示している。また、御家族様にもその説明は行っている。玄関の鍵も日中常に空いている状態となっている。スピーチロックは特に留意し、日々の支援に反映できるようにしている。	事務所内に「身体拘束をしないケアの工夫」を掲示し職員の意識を高めている。問題となる利用者の言動には動機がある、との考えを基に利用者向き合い抑圧感のない暮らしの支援に努めている。スピーチロックについては、不適切な言葉かけがあった場合は職員間で指摘し合い、場面を共有し、注意している。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に基づく学習会の機会を設け、事業所内に限らず利用者様の自宅での虐待が見過ごされないよう注意すると共に防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で権利擁護の研修会を実施して職員に周知徹底を図っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約・改定時には、ご利用者様やご家族様の意見や意向・疑問点など、一度ではなく直接何度か話し合い、理解していただけるよう努めている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム甲西

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会が頻回にある為、その都度ご家族様からの要望をお聞きすると共に、ご本人にもその都度意見や要望を聞く機会を作っている。また、苦情に関してなども、意見が言いやすいよう、窓口を併設施設の相談員が対応し、法人内で連携して意向の反映に努めている。	家族の面会時には利用者の居室に通し、お茶を入れて様子を伝えることを糸口に意見・要望を聞いている。脳梗塞後の歩行訓練の希望や、退院後食事が十分に摂れていない、在宅マッサージを受けたいなどの要望が出された。栄養食品の活用、事業所内での歩行訓練、在宅マッサージの往診を依頼するなど、要望を反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、定期的にスタッフミーティングを行い、職員の意見や要望を聞き、業務に反映できるように取り組んでいる。出席できないスタッフは事前に意見を伝え、会議の内容は議事録で周知している。	利用者のケアに関する職員の意見や気づきは常に管理者に伝えている。食事形態、歩行時のつまづきへの対応、リハビリの訓練量など多様に出されており、職員間で検討し、意見を反映している。勤務体制、年休希望、異動希望など要望を聞いている。管理者は職員が意見・要望を出しやすい環境づくりに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者やスタッフの個々の努力や実績・勤務状態などを評価し、やりがいや向上心が持てるよう配慮している。資格取得等についても、勤務時間を考慮するなどの応援体制もある。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員に対して、職員の力量や段階に応じて事業所内外の研修や学習会の機会を作り、人材育成に取り組んでいる。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市役所が中心となり施設職員を集め勉強会など開催している。研修に参加できる職員は積極的に参加されている。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の思いや不安を受け止め、安心してもらえるよう寄り添いながら話の傾聴に努めている。「その人」を知ることができるよう、職員全員で関係づくりに心を配っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様やご家族様が何に、どう困っているかそれぞれの思いや要望を聞きながら、一緒に考えていくことから関係づくりを行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期より、ご本人様やご家族様の思いやそれを取り巻く状況などを確認しながら改善に向けた支援の提供繰り返し、その方が本当に必要とするサービス繋げている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩でもあるご利用者様より、普段から生活の知恵など様々な事を教わりながら、ご利用者様と職員が共に支え合いながら、暮らしを共にしている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム甲西

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご利用者様のみならず、ご家族様との交流を持ちながら、ご家族様にも寄り添い、ご本人様の日々の出来事やそこからの気づき等を共有し、ご本人様を共に支える関係づくりを行っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力を得て、実家に出かけたり、お墓参りなどに出かけている。お正月には実家に帰り自宅にて過ごされているご利用者様もいる。	利用者・家族からその人の生活背景を聞き、センター方式を使用して基本情報に記録している。馴染みの場所・人を把握し、つながりを継続できる支援を行っている。利用者の希望に気付いて親族宅を訪問したり、友人、元職場やサロンの仲間と会いに行ったり、来てもらったりの場面を持てるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの話を聞き、相談に乗ったりしながら、職員も一緒に会話の機会を多く持ち、気の合う仲間づくりやご利用者様同士うまくいくよう仲介するようにしている。食事のテーブル席なども、気の合う方々が隣り同士にしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、当グループホームのご利用者様と職員で併設している老健施設に面会に出かけたりしている。併設施設の相談室とも連携をしながら、ご家族様とその後のやり取りを継続し、相談や支援している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わり方に重点を置き、声掛けだけでなく、仕草や表情・目線の一つ一つに気を配りながら、ご本人様の意向の把握に努めている。ご家族様とも連携しながら、一人ひとりの思いや暮らし方などの意向など検討している。	利用者一人ひとりのペースを大切にし、その人らしい暮らしができるよう、思いや意向に沿って支援している。利用者にアンケートに答えてもらったり、言語障害のある利用者には筆談でコミュニケーションを取るなどの工夫をしている。また日々の行動や表情からも思いや意向を汲み取っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様、一人ひとりのこれまでの人生や生活歴・環境的な背景や人間関係、さらにはサービス利用の経過などを大事にして、その方の価値観や個性を尊重するように、スタッフ全員で取り組んでいる。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれのご利用者様の生活リズムや心身の状態の変化に留意しながら出来る事や出来なことに注目して、その人の全体像の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から、ご本人様やご家族様の思いや意見を聞きながら、より良い暮らしに反映できるようアセスメントや意見交換・モニタリング・カンファレンスをしながら介護計画を作成している。	入居時に本人・家族の要望を聞き、1か月間の暫定プランを作成する。居宅担当職員を中心に職員・本人・家族・かかりつけ医など、様々な意見を聞き、本プランを作成している。3か月ごとの見直しを行いながら、状況の変化があれば、都度対応している。いずれもセンター方式を活用し、本人本位の介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	それぞれのご利用者様の言葉やその時々エピソード、そこからのスタッフの気づき等を日々の記録に残し、職員同士の情報の共有や介護計画書の見直しや実践的ケアへ活かすよう工夫している。			

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム甲西

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様や家族様のその時の状況に応じて、通院や送迎等、必要な支援を柔軟に行っている。また、併設施設の協力も得ながら、サービスを限定せず、多機能に対応できるようにしている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流が盛んであり、地域包括支援センターや市役所の介護課や田島地区区長などの協力を得ながら、地域ボランティアなどが多く参加してくれている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様が希望をされるかかりつけ医となっている。また、受診や通院については、ご家族様の要望や状況に応じてスタッフが対応している。	希望するかかりつけ医にて診療を受けている。利用者7人は併設の介護老人保健施設の医師の訪問診療を受けている。1人は以前からのかかりつけ医で家族が同行し、普段の様子や変化を書面で伝え、結果は共有している。歯科についても、訪問診療にて定期検診を半年毎に行い、プラークコントロール良好との診断を得ている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や表情などの変化に留意し、異常の早期発見に努めている。変化等に気付いた時には、常時併設施設の看護師に報告し、医療につなげている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご利用者が入院した場合は、定期的にお見舞いに行き、ご家族様や医療関係者などとも連携し、速やかな退院で不安なく過ごせるように支援するようにしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来るだけ早い時期から、話し合いの機会をつくり、ご本人様とご家族様や関係者の意向を確認している。そこから、当施設で対応できる最大のケアについての説明も行っている。また、方針が決まればチームでの方針を共有していく。重度化して医療行為が必要な場合は併設施設へ移れるよう相談室の協力を得ている。	入居時に本人・家族へ看取りは行わないことを伝えている。重度化した場合は併設の介護老人保健施設への入所も含め説明している。「重度化」の判断は食事が摂れなくなった時点とし、医師が判断し家族へ病状を説明した上で、家族が安心と納得を得られる方法を話し合い決定している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や連絡方法については、話し合いにて徹底している。また、マニュアルも出来ている。緊急時は昼夜問わず併設施設の看護師が応援に入り、共に対応する事となっている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成してある。災害を想定した訓練を積み重ねる事が大切なので、ご利用者と共に避難訓練を実施している。地域の方々の協力体制も確立しており、近隣協力者の名前が緊急連絡にも記載されている。また、本年度の避難訓練では、水害対策として入所者様と避難訓練を行う予定である。	消防署の指導・協力を得て、同一法人施設と合同の訓練を年2回行っている。初期消火、放水訓練・通報訓練・避難経路の確認など職員と利用者がいっしょに行っている。避難の際は利用者を車いすごと運ぶ、背負うなど実際をシュミレーションした訓練をしている。地域消防団、地区住民の協力も得ており、水害訓練も11月に行う予定で法人内施設と連携体制を整えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、敬意をはらい、ご本人の気持ちを大切にしながらさげすまない言葉かけやケアを心がけている。また、個人の情報についても責任ある取り扱いと管理を徹底している。	理念の第一に利用者の尊厳を守ることを挙げて、自尊心を傷つけたり、プライバシーを損ねたりすることのないよう支援に、日々、努めている。排泄の際はドアを閉め外で待つ、居室は必ず閉め入室時は声を掛けるなどの配慮をしている。記録書類、薬やメモは保管されており、個人情報保護の意識を持って対処している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム甲西

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの利用者に対して、ご本人様がわかりやすく答えやすいような声掛けや働きかけに留意している。ご利用者様がご自分で決める事が出来る場面を作り、意思表示が困難な方には、表情・目線や身振り手振りなど全身で発していることをキャッチしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	大まかな基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりのペースや思いを聞いて、その思いに沿って一緒に生活をさせていたいている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前など、ご自分で衣類など選んでいただいている。また、外出時などは、ご本人様が気に入った帽子など着用して出かけている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は併設施設の厨房が一括して行っている。ご飯はホーム内にて炊いている。ご利用者様には出来る事を手伝っていただき、準備や片付けを行っている。時々カレーなどの昼食と一緒に作る事も行っている。職員も一緒に食卓を囲み、話をしたりしながら食事を食べられている。	食事は併設施設調理室より届けられ職員もいっしょに同じ物を食べている。ご飯のみ事業所内で炊いている。月2回選択メニューが用意され料理を選ぶことができる。料理を拡大写真にして利用者が自己決定できるよう工夫している。季節行事、お誕生会などでは事業所内でカレーやおやつを作り、楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日一人ひとりの食事量や水分量を把握して、体調の変化と共に留意している。体調や摂取状況などに合わせて、管理栄養士と共に、食事内容や食事形態・嗜好品など取り入れている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前には嚥下体操を行っている。食事後の口腔ケアは、ご自分で出来る方には声掛け見守りを行い、出来ない方にはお手伝いをしていく。また、訪問歯科医も見えられている為、口腔内の状況を診ていただいている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用して、尿意のない方にもパターンを把握して、ご本人様のプライドを守りながら、そっと言葉がけをしながらトイレでの排泄支援を行っている。	排泄チェック表にて利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。職員は利用者の行動から排泄のサインを察知している。車いすを使っている利用者でもトイレでの排泄を支援したり、夜間の声かけや時間での誘導など、個々の排泄パターンに応じた個別の排泄支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の回数や量をチェックして、水分補給や食物繊維の多い食事の提供を心掛けている。また、適度の体操や廊下歩行など行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決めて入浴となっている。回数や時間帯については、ご利用者様の希望に合わせている。ゆっくり入りたい方には、ゆっくり入浴できるように、ご利用者様のペースに合わせて入らせていただいている。プライバシーにも配慮しながら行っている。	利用者の希望アンケートの結果に沿って、火、木、土曜日の午後に入浴している。その人の習慣に合わせた入浴手順や希望に合わせた入浴支援を行い、浴室では利用者と職員とのゆったりした会話を心掛けている。入浴を拒む方には、無理強いせず言葉かけを工夫し、入浴支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム甲西

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動的に過ごしていただき、生活のリズムを整えるようにしている。夜間眠れない、ご利用者様にはホールなどで過ごしていただき、職員が寄り添って話を聞いたりしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方説明書をそれぞれのファイルに綴じてあり、いつでも確認できるようにしている。また、内服薬の変更があった場合には、連絡ノートに記載してスタッフ全員が把握の徹底に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や食事後の片付けなど出来る家事など行っている。ご利用者様同士の交流を兼ねて、ホールにて歌やゲームを楽しんでいる。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様に行きたい場所など聞き実現できるようにしている。また併設施設の協力を得ながらバスハイクなどにも出かけ気分転換を図れるように支援している。	お花見、紅葉狩り、初詣、お寺参りなど併設施設の車を借りてバスハイクを楽しんでいる。日常的な外出である買い物ツアーや散歩、地域活動としての花壇の水遣りなどが、外気浴の機会となり、気分転換や五感刺激を得られることにつながっている。また、併設の施設へは通路を使い気軽に外出しており、デイサービスや老人保健施設の利用者、職員とも顔馴染みになっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様より、お金を預かりホームで管理している方でも、買い物時など、ご自分で払っていただけるよう工夫している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様の希望に応じて、日常的に電話やお手紙を出せるように支援している。電話やお手紙を出すところが併設施設にある為、職員と一緒に行かれている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、いつも気持ちよく過ごせるように、環境整備を行っている。花や飾り、貼り絵など季節感を感じてもらったり、和んでいただけるような雰囲気づくりを行っている。	食堂を兼ねたリビングの一角に畳のコーナーがあり、利用者が上ることは身体的に難しくなってきたり、生活感を感じることができ、また行事の際は活用している。室温、湿度はこまめに点検し、適切な環境を保っている。利用者でも自発的に共有部分の清掃を職員といっしょに行っている。廊下、リビングの壁には、季節にあった貼り絵が飾られている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールにソファやテーブルを置いたり、畳のスペースもあるので、それぞれがお好きな場所で思い思いに過ごせるように工夫している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様の希望に応じて、壁には写真やレクリエーションなどで作成した物が飾られている。また、自宅で使用していたテレビやソファ、テーブルなど置いていただき、御自分だけの空間で安心して暮らしていただけるよう工夫している。	居室はベッド、洗面台、タンスが備えられている。その人が気に入る居心地よく過ごすことができるよう家族・本人と相談してレイアウトしている。自作の書道作品や家族写真、テレビなど落ち着ける空間が整えてある。入口は表札やのれんが掛けられ、利用者が迷うこともなく、併せてプライバシーの確保もできるよう工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの心身機能の変化に考慮して、ご利用者様にあった生活環境や不安や混乱のないようなケアの工夫をしている。出来ない事だけに注目するのではなく、ご自分の力を活かして働けるよう、そっとサポートをするようにしている。			